

Cocoti Easy DataBase for Excel

取扱説明書

●はじめに

この度は、Cocoti Easy DataBase for Excel をご利用いただきありがとうございます。

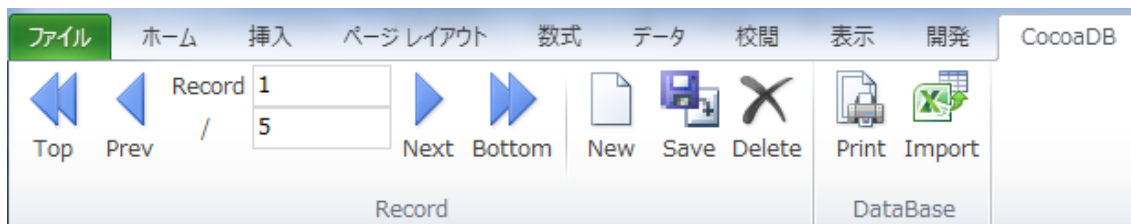
●特徴

- Excel だけでカード型データベースを構築できます。
- Excel でフォーマットが作成できます。（既存のファイルを使えます。）
- フィールド（項目）の追加が簡単！
- 一括印刷が可能
- 別ブックの串刺し（3D）計算が簡単にできます。（Excel にはシートの串刺し計算機能がありますが、別ブックだと簡単にはできません。）

●システム要件

Excel 2010 以上

●機能



分類	名称	機能
Record		
	Top	先頭レコードへ移動します。
	Prev	前のレコードへ移動します。
	Record	レコード No.をしめします。 値を入力すると、任意のレコードへ移動します。
	Records	レコード総数
	Next	次のレコードへ移動します。
	Bottom	最終レコードへ移動します。
	New	新規レコードへ移動します。
	Save	レコードを保存します。
	Delete	レコードを削除します。
DataBase		
	Print	データベースシートで選択されているレコードを一括印刷します。
	Import	任意の Excel ブックのデータを、データベースシートへ一括登録（インポート）します。串刺し計算が簡単にできます。

●インストール

インストール方法は、以下の2つの方法があります。ご利用に合わせてお選びください。

1. 利用頻度が低い場合：任意のフォルダに解凍し、直接以下のファイルを起動します。

CocotiExcelDatabase.xlam

2. 利用頻度が高い場合：以下のリンクを参考に、Excel アドインとして登録してください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/office/excel-でアドインを追加または削除する-0af570c4-5cf3-4fa9-9b88-403625a0b460>

●使い方1（ゼロからカード型データベースを構築する場合）

1. 空白のブックを開きます。

2. 入力カードの作成

以下のようにセルに値を入力します。

A1		fx ID			
	A	B	C	D	E
1	ID				
2	Name				
3	Address				
4	Phone				
5					

3. セルに名前を定義します。

① B1 へカーソルを移動します。

② アドレス入力欄に「ID」と入力します。

ID		fx			
	A	B	C	D	
1	ID				
2	Name				
3	Address				
4	Phone				

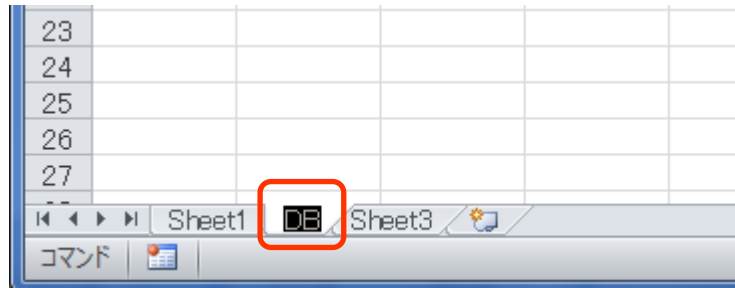
③ B2 へカーソルを移動します。

④ アドレス入力欄に「Name」と入力します。

※必ず最後に[ENTER]キーを押してください。

⑤ Address と Phone も同様に名前を定義します。

4. データベースシートを作成します。
 - ① Sheet2 をダブルクリックします。
 - ② シートの名前を「DB」（半角）と入力します。



5. データベースシートにフィールド（項目）を定義します。
 - ① 以下のようにフィールド（項目）名を入力します。

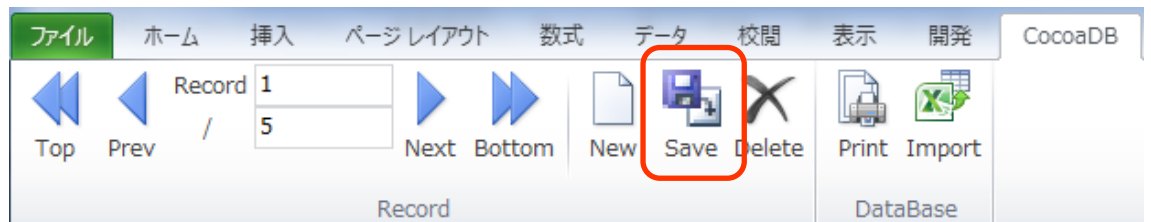
	A	B	C	D	E
1	ID	Name	Address	Phone	
2					
3					

※A 列のフィールド（項目）名は、「ID」のように必須入力の内容としてください。

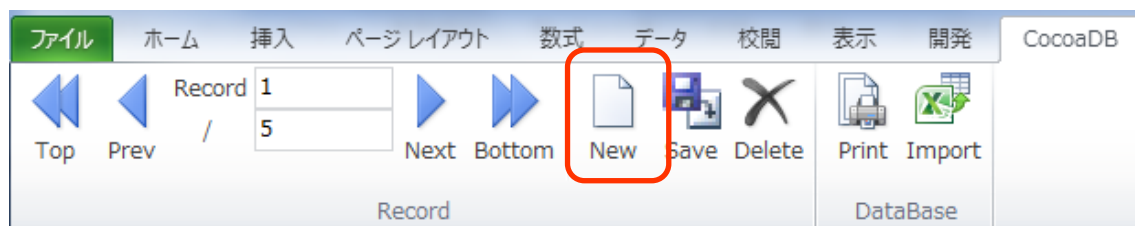
6. Sheet1 のカードにデータを入力します。。

Phone		03-1234-5678			
	A	B	C	D	E
1	ID	1			
2	Name	山田 太郎			
3	Address	東京都千代田区			
4	Phone	03-1234-5678			

7. [Save]をクリックし、レコードを保存します。

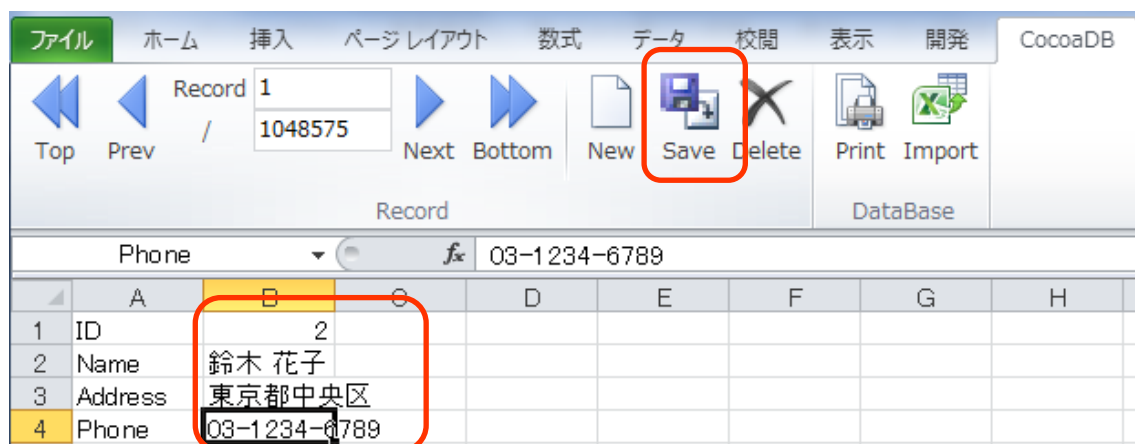


8. [New]をクリックし、新規レコードを開きます。



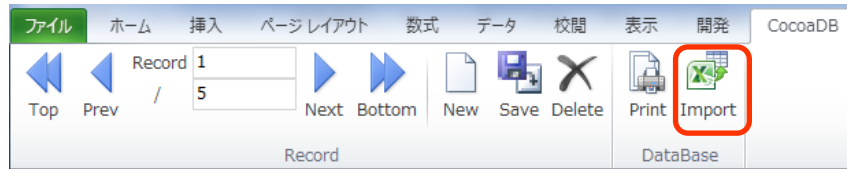
9. [New]をクリックし、新規レコードを開きます。

- ① データを入力します。
- ② [Save]をクリックし、レコードを保存します。

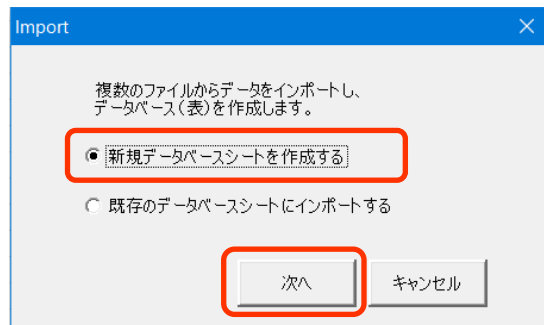


●使い方2（既にあるファイルからインポートする場合【串刺し計算するときなど】）

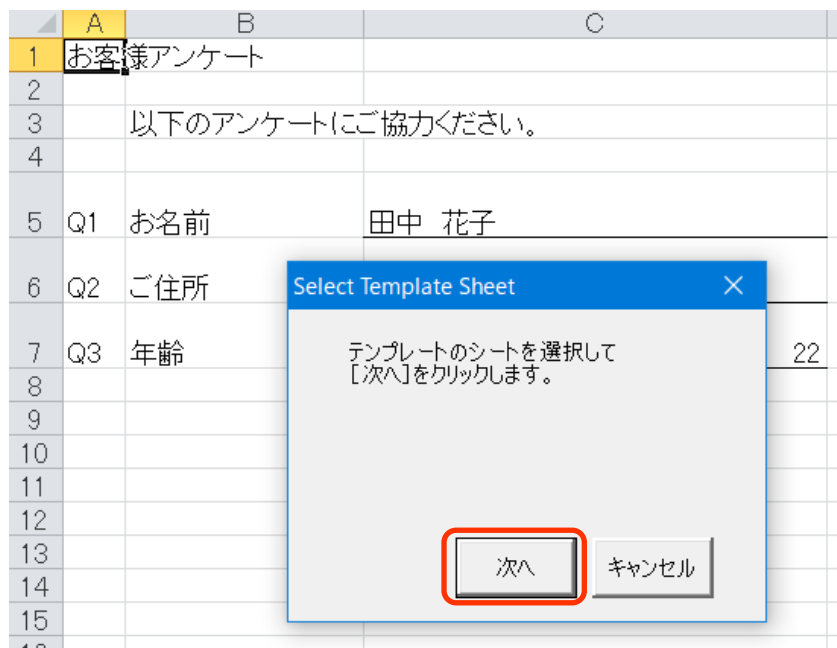
1. [Import]をクリックします。



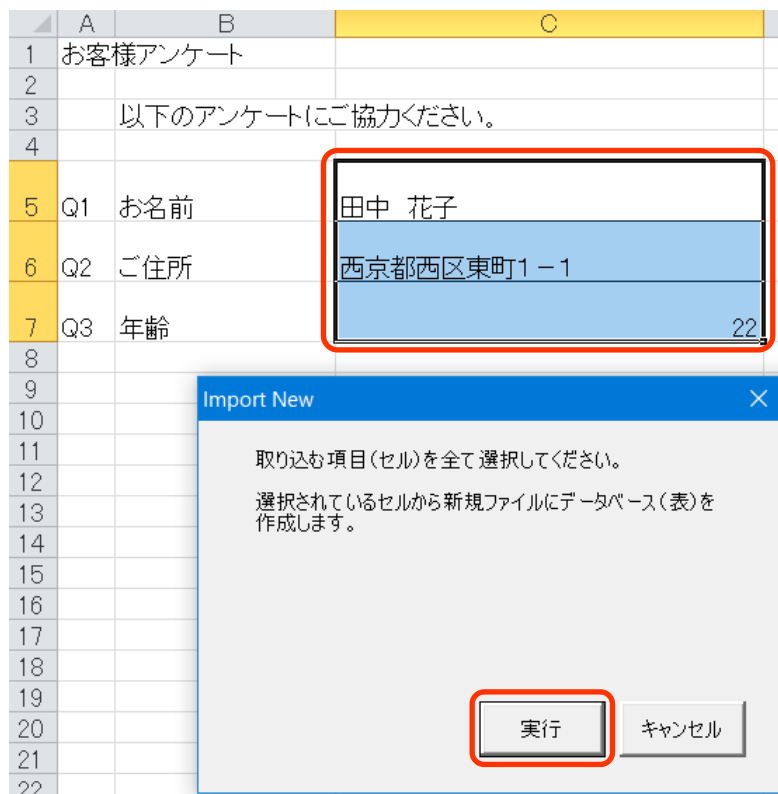
2. 「新規データベースシートを作成する」を選択し、[次へ]をクリックします。



3. テンプレートとなるシートをアクティブにし、[次へ]をクリックします。



4. 取り込む項目を全て選択し、[実行]をクリックします。



※最初のフィールド（項目）名は、「ID」のように必須入力の内容としてください。

5. 「DB」というシートが作成され、1行目にはフィールド（項目）のアドレス、2行目には各フィールド（項目）の値がセットされます。
（下記の例のようにセルに名前を付けておくと管理が分かりやすくなります。）

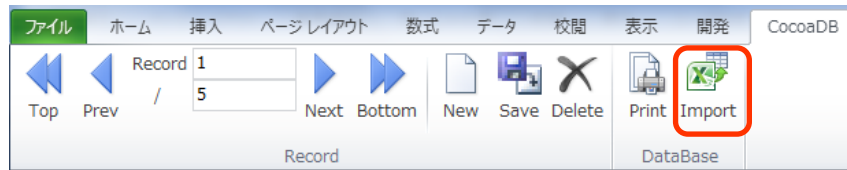
	A	B	C	D	E
1	=名前	=C\$6	=年齢	<FileName>	<Folder>
2	田中 花子	西京都西区東町1-1	22	アンケート1.xlsx	C:\Users\User\Docu
3					

The screenshot shows the bottom of the spreadsheet with the 'DB' sheet selected. The 'DB' sheet is highlighted with a red box.

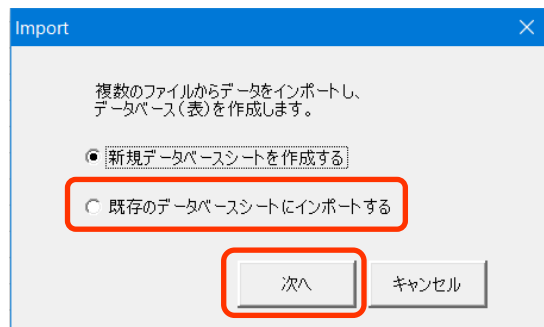
必要に応じフィールド（項目）名を並び変えます。

※A 列のフィールド（項目）名は、「名前」のように必須入力の内容としてください。

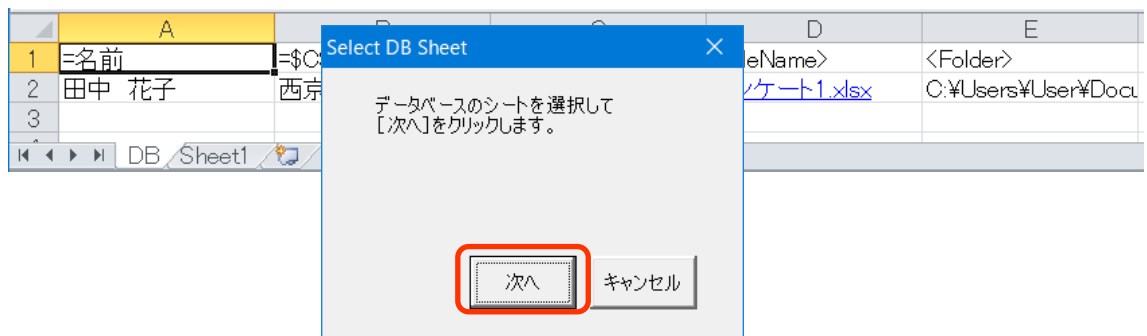
6. 次に他のシートの値をインポートします。再び[Import]をクリックします。



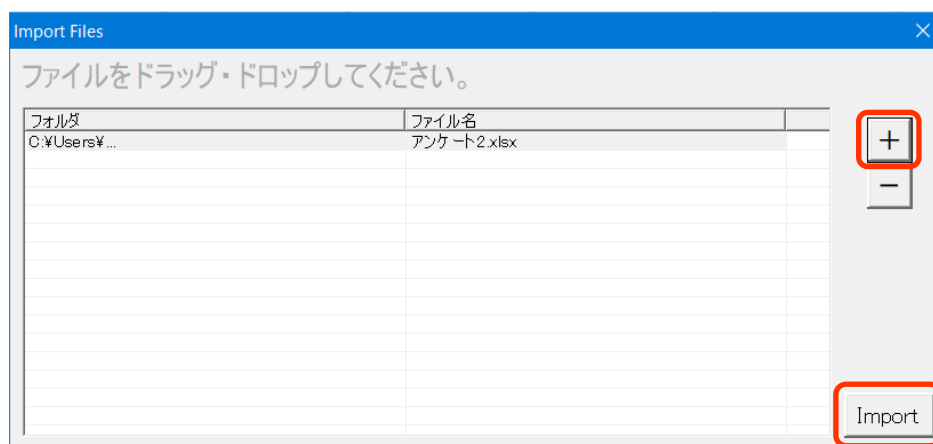
7. 「既存のデータベースシートにインポートする」を選択し、[次へ]をクリックします。



8. データベースのシート（「DB」）をアクティブにして[次へ]をクリックします。



9. インポートするファイルをエクスプローラからリストにドラッグ・ドロップするか、[+]をクリックし、ファイルを選択します。

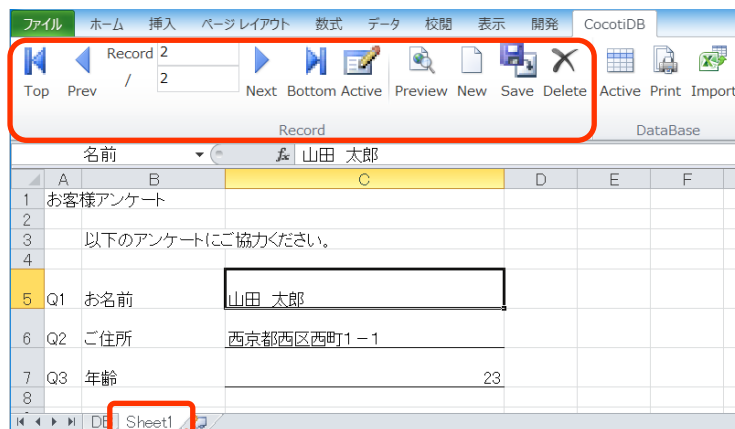


10. インポートされたデータが追加されます。

この様にデータがリスト化されるので、集計などが簡単にできます。

	A	B	C	D	E
1	=名前	=C\$6	=年齢	<FileName>	<Folder>
2	田中 花子	西京都西区東町1-22		アンケート1.xlsx	C:\Users\¥User¥Docu
3	山田 太郎	西京都西区西町1-23		アンケート2.xlsx	C:\Users\¥User¥Docu
4					

11. カード型データベースとして使用する場合は、「Sheet1」をアクティブにし、「Record」の各機能を利用できます。



シート名は「Sheet1」としてください。